

死亡現認書

昭和二十二年七月十一日

本籍地		[Redacted]	
現住所		[Redacted]	
所屬部隊名 独立第六教育飛行團司令部			
官等級氏名		陸軍技術佐官 [Redacted]	
死亡年月日時	昭和二十二年九月三日 午五時 (確度 甲)		
死亡場所	爪哇島バタビヤ市南方第五陸軍病院 (確度 甲)		
死亡區分	病	死亡事由	胃穿孔兼腸閉塞兼腸捻轉
遺骨、遺留品の状況	不詳	傷病名	(昭和二十二年七月四日)
昭和二十二年九月一日浦留業二後發局ニ交付ス			

右現認書

11-12

1913

現認者

本籍地

現住所 同左

死歿者との關係 小隊長

所屬部隊 独立第一師団 歩行團司令部

元職官氏名印 陸軍主計中尉

記載上の注意

1. 確度は甲(確實)、乙(概ね確實)、丙(疑はしきもの)の區分で記入する
2. 死亡事由欄には何々貫通銃創、或は「マソリア」「チゾス」等の病名を記入する
3. 死歿者との關係は中、小隊長、分隊長、職友等記入する

死亡現認證明書

本籍地

所屬部隊(固有名)

徵集年 昭 13 年

前 南洋軍航空隊 運輸部 (通稱號)

海 15358

役種

兵和 航空

官等級

死亡前 軍曹 長

氏名

生年月日

留守擔當者

親柄 父 氏名

年月日時及區分

昭和十三年十月十五日

時 分 戰死

場所

ジャワ島 木下川

傷(病)名

市民 襲撃 死亡

年月日時

昭和十三年十月十五日 時 分

13-11

1915

名	戦死(病死)の状況	受傷(罹病)の状況	内地港湾出發 戰地到着年月日	勤務の概要

右の通り現認したことを證明す

昭和二十一年八月一日

本籍地

所屬部隊三七教育隊

官等級

陸軍伍長氏名

11月15日 查過子共一名左道小形自動車修理

修理後時計修理に廻り美事(明迄終)小形(子共)

修理中不明修理に便用(居大土民(信用)出(子共))

調査(子共)其(名)付(之)氏(以)取(差)小(形)自(動)車(と)試(器)

吳(水)上(云)此(ノ)カ(不)カ(長)舞(着) (付)反(攻) (大)為(殺) (小)

征(付)何(此)カ(引)カ(小)行(ノ)右(と)

人(付)短(氣)者(也)此(分)子(一)應(実)子(一)

現認證明書

4-14

本

所屬

官等

發病

受傷

病

死亡

死亡

死

捕

右須可

昭和

六月

九日

現認

法所

所屬部隊

官等

級氏名

陸軍

第

師

第

旅

第

團

第

營

第

連

第

隊

第

隊

第

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

昭和二十年十月十四日

寫

突然にして失禮申し下す

小生九日南の方より帰るし四谷の者にて

中村殿

は同部隊の小生人事御下しを承りたかば我は相

当苦勞を御承りし事にてたかば御任及る為に承り

書付申上十日申日夜我死即ち了た、もろ

少報は之中存知り多し存し、何れも過院

出来申たり左に同い申し、何れも過院

遺留の件は、扱つても細い事所も、たいりん

今日はお礼に失禮申し下す

支部

杉本園は病院外科 病棟七號

寫

※

係長

主任

取扱者

兵籍

整理
但
山
號

死亡現認證明書

※
受
調
製

年
月
日

8-12

所屬部隊

國有独立九八大隊

通稱 襲八八五九

本籍地

徵
種
後備
兵

步
官
前
曹
死

氏名

生年月日

死亡年月日

昭
20
12
6

死亡場所

ジャワ島
マラン病院

死亡区

戦傷死

傷病名

左右大腿部
首貫銃創

現住所

本籍地に同じ

留守者

妻氏名

氏名

死亡者
続柄

母

受傷年月日

20
10
20

受傷場所

ジャワ島
マラン病院

入院年月日

同

入院場所

ジャワ島
マラン病院

認定資料

昭和二十年十月二十日ジャワ島シドアルジョ村(スラバヤ北方二十一村地)に
至シヤワ義勇軍第三大團兵營内に於て某國飛行機二機上降
着シヤワ島マラン病院に於て加療中
病状
昭
20
12
6
日
シヤワ島マラン病院に於て加療中
昭
20
12
6
日
シヤワ島マラン病院に於て加療中

調製の上の注意

所見

認現

遺骨状況

後

隊

七

入

一、印の箇所は儘部にて記入す
 二、歴々の箇所は隊より戦死に至る詳細に記入のこと
 三、戦死常時の状況は特に明瞭詳細に記入のこと
 四、一部調製とす
 五、本書送り先は

死七番との関係
 隊
 階級
 准
 氏名

現住所
 襲入八九九部隊
 有

遺骨状況
 有

16.11.19 釜山出陣
 20.1.1 曹長

16.12.6 独自ニ九八中隊編入
 17.1.1 軍曹

16.12.24 釜山に上陸
 17.2.1 伍長

16.1.15 釜山に依り歩兵三六
 16.11.27 高尾港に上陸

8-13

1921

陸海軍 死亡現認證明書

資 料 提 供 者		死 亡 者												
死 亡 者 知 つ 方 法		遺 留 品 理 由	遺 骨 及 び 遺 骸 の 処 理	元 死 亡 事 由 (傷 病 名)	諸 死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 区 分	発 病 場 所	発 病 時 期	区 分	本 籍 地	開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)	所 属 (所 属 部 隊 又 は 職 名)	通 有 固
現 地 で 死 亡 し 事 情 を 予 き 知 っ た				多 傷 状 況 不 詳	スマトラ島ブキヤンギより7K	昭 20. 12. 10	戦 病 死			内 容	[Redacted]		属 所 部 細	
死 亡 者 と の 関 係		面 局 区 地												
友 人		※												
所 在 現 住 所	所 属 部 隊 所 属 域	種 兵 種 役												
[Redacted]	スマトラ 日 本 人 会 長	名 氏 所 住 現												
[Redacted]	名 氏	続 柄 (弟)												
死 亡 時 刻 (死 亡 時 刻 又 は 職 名 職 名)		死亡当時の状況及び参考資料												
陸 軍 陸 軍 少 将		スマトラの治安維持に任ずる近 紅歩兵少佐連隊に付しインド 本陣の武器弾薬等の護送 を要求し、拒否せらるるや日本軍警 備隊、収容所等を襲撃し 多数の戦死者を考に至るも、 あり 厚生省援護局調査票												
年 月 日 生		名 氏 所 住 現												
[Redacted]		続 柄 (弟)												
年 月 日 生		死亡当時の状況及び参考資料												
[Redacted]		スマトラの治安維持に任ずる近 紅歩兵少佐連隊に付しインド 本陣の武器弾薬等の護送 を要求し、拒否せらるるや日本軍警 備隊、収容所等を襲撃し 多数の戦死者を考に至るも、 あり 厚生省援護局調査票												
性 別		種 兵 種 役												
男		名 氏 所 住 現												
[Redacted]		続 柄 (弟)												
年 月 日 生		死亡当時の状況及び参考資料												
[Redacted]		スマトラの治安維持に任ずる近 紅歩兵少佐連隊に付しインド 本陣の武器弾薬等の護送 を要求し、拒否せらるるや日本軍警 備隊、収容所等を襲撃し 多数の戦死者を考に至るも、 あり 厚生省援護局調査票												

裏面記載上の注意を記しておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びませぬ)

人しんごの... 元

北陸と明善

本籍地... 陸軍衛生部長

右... 陸軍衛生部長

右... 陸軍衛生部長

三 当時の状況
昭和... 陸軍衛生部長

五 欄色... 陸軍衛生部長

三 当時の... 陸軍衛生部長

三 所見
本... 陸軍衛生部長

右證明書

昭和二十六年十月十八日

現住所

[REDACTED]

當時所屬

「ノノ」島「心」心「心」島長

元

陸軍憲兵少佐

[REDACTED]

現 認 確 亡 死 証 明 書

陸・海・邦

資 料 提 供 者		死 亡 者					死																		
死 亡 知 づ け 方 法		遺 留 品 の 処 理	遺 骨 及 び 遺 骸 の 処 理	元 死 亡 事 由 (傷 病 名)	諸 死 亡 場 所	死 亡 日 時	死 亡 区 分 ※	発 病 場 所	発 病 時 期	区 分	本 籍 地	開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)	所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 艦 隊 名	通 称	固 有 修 理 場	部 細	地 区 局 面	種 兵	種 役	守 衛 担 当 者 名 氏	現 住 所 名 氏	死 亡 時 刻 階 級 (兼 職 名 職 は 又)	名 氏	年 月 日 生	性 別
現 地 人 身 通 知 あり。戦 役 と 其 の 死 体 引 揚 現 認 する。			埋 葬	独 立 戦 軍 参 死 戦 死	ハントン市ハレルアンデル市場	昭 和 二 拾 三 年 拾 貳 月 貳 拾 六 日	*			内			治 11003			*				統 柄 (母)		上			女
死 亡 者 と 関 係 者		戦 友																							
現 住 所		* * *																							
所 属 部 隊 所 属 職 域		* * *																							
現 階 級 名 (名 職)		* * *																							
死亡当時の状況及び参考資料 昭 和 二 拾 三 年 拾 貳 月 二 拾 六 日 夕 方 戦 友 と 其 の 戦 友 同 じ 度 下 々 昭 和 二 拾 三 年 拾 貳 月 二 拾 六 日 朝 ハレルアンデル市場の戦場で戦死。その日の拾一特賞。葬儀は現地イスラムの方式による。現住居指前。埋 葬 場 所 ハントン市ハレルアンデル市場。葬儀は盛大である。																									

在留地を記入してください。(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

死亡現認(確認)證明書

◎ 裏面記載上の注意を見て書込んで下さい。

資 料 供 給 者	死 亡 者 の 資 料						現 留 守 住 持 所 者	本 籍 地	無 存 の 届		
注 方 た つ 知 と 亡 死	遺 留 品	遺 骸 の 遺 骨 埋 理	元 諸 亡 死				區 分	籍 地	隊 部 別 名	所 属 部 隊	
			死 亡 區 分	發 病 時	傷 病 名	死 亡 場 所					死 亡 日 時
一月廿一日失踪後、捜索、ブム杯で死体発見ス。		東海岸州グタバニの牛場埋葬ス。	自殺			スマトウ東海岸州グタバニ	昭和二十一年五月十日			飛行場中隊	
関係のト人本	敵隊后、死亡追同一行動アリ										
隊 部 属 所	所 住 現	*									
村空無線隊		終戦後、敗戦ヲ極度ニ悲觀シ、重大ナル責任ヲ感ジ、就中、報ニ全クノ絶望ヲ感ジ、タル旨ハ心境ヲ吐露セル遺書アリ。一月廿一日失踪。翌一日午前十時、ニ塔ノ銃声アリ。附近、ブム杯中ニ、十四年或義銃ニテ、腹部、胸部ニ各一彈ヲ放チ、自決セル。遺骸ニ應入。									
名 氏	姓 名	氏名者當座守密									
								続柄 (父)			

90-12

* (製官等) 昭和 年 月 日

軍 邦

A 軍用機	B 銃 砲 弾 薬 車 両 車	C 資 料	D 其 他
種類 用途	種類 用途	種類 用途	種類 用途
<p>自給の本人 との関係</p>	<p>銃 砲 弾 薬</p> <p>1945. 5. 19. 南軍の...</p> <p>1945. 5. 19. 南軍の...</p>	<p>資 料</p> <p>No. 1069</p> <p>甲 乙</p>	<p>其 他</p> <p>銃 砲 弾 薬</p> <p>甲 乙</p>
<p>製造工場</p> <p>製造番号</p>	<p>製造工場</p> <p>製造番号</p>	<p>製造工場</p> <p>製造番号</p>	<p>製造工場</p> <p>製造番号</p>
<p>備考</p>	<p>備考</p>	<p>備考</p>	<p>備考</p>

1928

戦歿者確認(證明)書

一、死歿者所屬部隊名(通稱號)ナリ。即チ航空修理廠(司令部三〇五三部隊)

一、徵集年 昭一九年 役種 現役 兵種 飛行兵

一、官階(死歿前) 伍長 (死歿後) 軍曹

一、氏名

一、死歿場所 シマツ島 バタコヤ 年 月 日 生

一、死亡原因ニ事由 戦病死 赤痢 黄痰 年 月 日 發熱

一、死歿年月日時間 昭和二十一年 七月 三十日 午後

一、死歿者本籍地留守擔當者 南西側 日本八雲基地ニ於テ

右確認(證明)ス

昭和二十一年七月三十日

元所屬部隊名 ナリ。即チ航空修理廠(司令部三〇五三部隊)

現住所

元官階級

氏名 印

註 死亡事由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニナリタ者ハソノ前後ヲクワシクオ知ラセ下サイ

宛先

地方世話部慰恤係

No. 1

故 [redacted] は貴重書ゆ記載する頃の通り姓名所属部隊に
 間違りなく同部隊は戦争終了時スミトウ島北部に駐在
 して [redacted] 昭和二十一年八月末部隊は引揚集結地スミトウ
 マカン近郊に集結せられた故 [redacted] 五月十八航空戦
 隊員の残存者にてカハル飛行場大隊に合入され印彦洋上の
 各諸島に分散し [redacted] 勤務し [redacted] 航空隊は
 一応このマカン近郊に集結せられた 利は故 [redacted] とはこの
 集結地にて初めを知らぬ [redacted] 内地 (の引揚を何時の日かと
 期待し [redacted] 九月二日 命令に依り百一合員に接收せられた
 途迄旧部隊の各所在地。航空資材の整備、保養を目的と
 し、故 [redacted] 以下二十四名がスマトラ、アチエ州、ビルン
 之根拠飛行基地に引送られた。この一員に故 [redacted]
 [redacted] 入を [redacted] した。 戦ひ終わった故。始末は又困難を
 伴い折しも原住民族間に独立運動が醸成され十月中旬に

世話録



70.2

は原住民と衝突、二十四名は本隊と連絡を取れども本隊より
 は依然懸念せよとの命のみで日誌原住民の集団襲撃と
 うけつても抗しつづけて参りし。十月末本隊との連絡は杜
 絶した。連絡不能に陥入った二十四名は岩窟を原住民
 に誘導すの己む得ずなきに至りし。本隊メダンとの間は約五百
 軒徒歩で連絡するも途中の原住民は岩窟、衣服、故
 一と、異教徒としての被疑は多量かれしを二十四名は一志
 自流没するに本隊との連絡の期を待つる中に一ヶ月
 新田アチエ井、北野マラツカ海側、ロクマウエ港より二十三軒南
 東のニツサハ、密林に入つて現地人と避けて茅の穂付と始め
 まし。十一月、初旬現有糧秣と收穫期迄は必要量とを
 ありにも不足し、このころに二十四名は合議し、
 の主張は唯一の連絡路梅上と利用しメダン迄行く
 葉が腐敗せしめられた。山生ら木の根、椰文の葉と食むつゝ

世話録

23-17

1931

原住民との接渉。又接渉に依り本隊に近づいて行つた陸路
 と見送らる。一行は [] がナリ 一行五名が先
 登一山を下り海岸に降りロクスミウエの山麓村に入るとか
 した。然し乗るべき船とてふもなし十月二十日迄船入手に如
 した。たゞ小型帆船は唯一隻又中国人の密輸船に乗りこ
 ぬかあるのみとの連絡がなつた。きり山生一行とは連絡を絶
 ちた。三日の山生一行は数百人の原住民に再び襲
 撃され我々を監視するとの噂が流れた。その時山生は傷を負
 へた。この直感 [] した。時刻 [] 原住人の話
 一行のロクスミウエ港よりの脱出にありつた。時刻 []
 報は [] 一行の脱出はは出港の向もふく機械故障の
 り海上に漂流する。マラツカに海をたぐり一時 [] 原
 人の追跡に合は原住人が帆船に上つた時は更悟の上で目
 快はマラツカに海に投入した。機材にて船内に誰一人見当ら

世話録

かつた。唯、決して使用された。拳銃と短剣とを太船に
 甲板に残した由、又現住民の認める所は、原住民がカーナ
 敷住みで、おそく知りた時二百名位手前を、銃者と認るも
 捕りた由、且船匠は日本人と云ふ主張に、天命を、全うせよと
 思ひます。時に昭和二十二年五月二十三日、午前八時、
 アキエ、ロクス、マウエにて、
 に申へて、
 マラツカ、海上は、鯨が、非、中、以、多、中、付、入、水、危、険、現、示、し、て
 リます。
 以上、お、始、た、在、の、所、に、あり、ます、が、大、略、小、生、の、海、境、を、申、し、ま
 した。一、水、年、小、生、は、部、隊、長、記、お、知、り、た、時、は、未、だ、
 日、記、範、郵、便、物、は、検、査、さ、し、入、ト、ス、リ、ヤ、原、地、人、に、利、し、る、内、容、
 の、記、載、は、送、付、困、難、な、り、た、の、小、生、は、病、死、し、た、と、認、ら、れ、
 猶、昭和二十二年（一九三七年）五月、大、列、島、中、日、毛、人、墓、地、に、政

世話録

おぼえがき資料通報



軍邦

系部 別隊	担任	地区	区分				
A 資料提供者	B 未 帰 還 者 資 料			入手 経緯			
存続な本人 との関係	詳細な状態	場所	時期	所属部隊(艦 艇又は住所)	届 有 無	氏 名	時 期
					役職(現否)		
所 属 (艦艇名)	現住所	甲 乙 丙	甲 乙 丙	甲 乙	兵 種 (現否)	氏 名	時 期
					階 級 (艦名)		
階級 (艦名)	氏名	甲 乙 丙	甲 乙 丙	甲 乙	留守宅	氏 名	時 期
木宿							
氏名	氏名	甲 乙 丙	甲 乙 丙	甲 乙	年	氏 名	時 期
					月		
	氏名	甲 乙 丙	甲 乙 丙	甲 乙	日生	氏 名	時 期
					甲 乙		
	氏名	甲 乙 丙	甲 乙 丙	甲 乙	時	氏 名	時 期
					才		
C 所見							備 考
索引	有 無 済	戦	△	中	救	番号	

コ.12.15.
シヤツ島プリマンガン州.
バントン県テライ助ハサガラシ村
チキト
カントネヤ独五戦争に戦死

死.

死亡現認(確認)證明書

◎裏面に載上る事項を注意し書きこむこと。

※(調査官) 昭和 年 月 日
 ※(調査官)

遺留品	及遺骸の遺管理	元 諸 亡 死					現留守 住擔當者	水 籍 地	無有の印	
		死亡區分	發病時	傷病名	死亡場所	死亡日時			部 局	部 局
タケゴン村長				昭和三十二年五月廿一日	スマトラ	昭和三十二年五月廿一日		有	8/1650/1	
				昭和三十二年五月廿一日	アケエ洲(山中)					
				昭和三十二年五月廿一日	マラリヤ(トリロ)					

昭和三十二年五月廿一日
 昭和三十二年五月廿一日
 昭和三十二年五月廿一日
 昭和三十二年五月廿一日

供提料資
 法方たつ知とじし
 現住民と松が再會の時
 現住民と松が再會の時
 昭和三十二年五月廿一日
 昭和三十二年五月廿一日
 昭和三十二年五月廿一日
 昭和三十二年五月廿一日

41-15

御回答についての説明

お送りしました名簿は、居住地区その他のことにおいて一応あなたと関係があると思われる未帰還者のかたがたのものであります。

名簿に記載してあります未帰還者の消息は、これまでに帰還された方々からいただいた資料等によつて最も確実と思われる未帰還者の最新（取替）の消息であります。

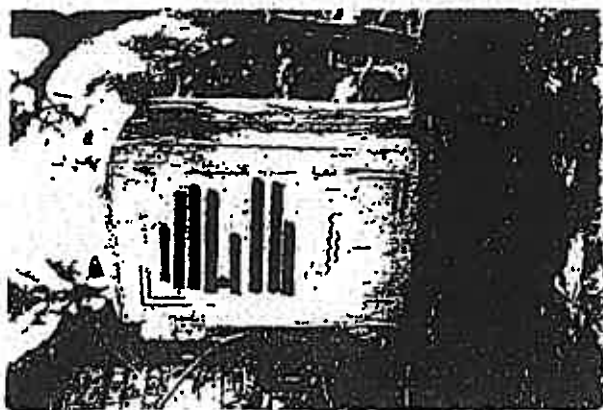
「死亡」と書いているのは、死亡したらしい資料はあるが確認するに至らないもの、「生存」または「行方不明」等と書いているのは、その初めに生存または行方不明等になったという資料だけで、その後の消息の不明なものであります。

お送りしました名簿以外に貴地区に居住している、又は居住していたかたについて御承知の場合も、次の要領に準じて御回答をお願いします。

御回答についてのお願い

名簿に記載してある未帰還者の消息を御覧になつて、次のような場合には御承知の状況を詳しくお知らせ下さい。

- 1 「死亡」と死亡について名簿にある名簿にある
- 2 「生存」「死亡」と死亡した名簿にある
- 3 「離隊」と離隊の原因



いては

たので離隊と判断されたものかをお知らせ下さい。御使用願います。

氏名簿 No. 53 長

氏名簿 No. 119 長

氏名簿 No. 56 長

未帰還者の氏名	上記の未帰還者について御承知になつている消息（時期、場所、状態）
No. 53 長 氏名	一九四二年七月二十日東海軍村に於て不明ニテ行方不明ト運命多知中戦死ニテ村外墓地ニ埋葬。
No. 119 長 氏名	一九四二年三月三日、木下、小村ニテ行方不明ト運命多知中戦死ニテ村外墓地ニ埋葬。
氏名	「特別要員」と 「三井物産」と
氏名	一九四二年三月三日、木下、小村ニテ行方不明ト運命多知中戦死ニテ村外墓地ニ埋葬。農園で働いた行方不明ト使用され、手摘み作りに参加中事故、外出血、原地上で三行方不明ト運命多知中戦死ニテ村外墓地ニ埋葬。
No. 56 長 氏名	現職当時、海軍に在り。最後階級は飛行少尉。 終戦当時、木下三井物産勤務。

三十四年五月三十一日

現住所 了子色州
もとの在留地 三井市
氏名 東海軍村 氏名
氏名

1937

タリタリ

死亡現認(確認)證明書

(調製月日) 昭和二十八年二月一日

資料提供者		死亡者の資料					
死亡通知の方 現 同 兵 工 場 勤 務 中 ニシテ 初 知 セリ	遺留品 同 市 墓 地 ニ 埋 葬	死亡の元階 死亡原因 死亡場所 死亡日時			現留守 住擔當者 縣 府 道 郡	本籍地 〃 〃 〃	隊部 屬所 航空隊
		及遺骸の處理 〃 〃 〃	死亡原因 死七	死亡場所 スマトラ島 タバヌリ州 バタントロ工務場ニ於テ			死亡日時 昭和二十八年七月
関係の人物 同 兵 工 場 勤 務	内容 〃 〃 〃					種 役 現 兵	
隊部 屬所 〃 〃 〃	記 (死亡當時の状況) 兵 工 場 ニ テ 擲 弾 筒 弾 射 撃 中 爆 破 身 體 ニ 散 弾 ヲ 受 ケ 死 セリ					級 等 官 曹 長	
現住所 〃 〃 〃	姓名 〃 〃 〃					名 氏 〃 〃 〃	
遺留品 〃 〃 〃						年 月 日 生 〃 〃 〃	

下死、情況

方ラシテ、第一、大改、
メ、周、改、城、戦、
開始、サ、
指揮、
イ、下、
東海、
（ガ、カ、ヒ、タ、ム、
敵、左、翼、
遂、敵、
氏、ハ、
同、戦、
諸、氏、

備

備

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

方ラシテ、第一、大改、メ、周、改、城、戦、開始、サ、指揮、イ、下、東海、（ガ、カ、ヒ、タ、ム、敵、左、翼、遂、敵、氏、ハ、同、戦、諸、氏、

昭和二十七年八月十五日

資料提供者

死亡の状況

オランダ軍の第一次大攻勢までには代は少将の麾下
 にあつてメダン周辺の攻域戦に参加して居るが一九四七年七月
 二十日より開始されるオランダ軍第二次攻勢時にはインドネ
 シヤ独立軍を指揮しヤンタル附近に転戦して居る其の右同年
 九月十三日インドネシヤ軍少佐の指揮するB旅団の一部
 と共に東海岸洲バビロクル沿道にて南下中の敵機動部隊一
 ががシラム黒魔隊(敵秘藏の最精鋭)を襲撃し同氏は最末
 羽翼にあつて五名のインドネシヤ兵を率て残敵銃座を死守遂に敵
 の包圍下におちつり全員壯烈なる戦死を遂ぐ、
 氏は腹部及顔部に貫通銃創を受け同陸地にて戦死終了后
 同戦斗に参加せる同志外一名の諸氏の手に
 して埋葬せり

昭和二十七年八月十五日

資料提供者

1941

死亡現認(確認)證明書

昭和二十二年三月三十日

昭和二十二年三月三十日

<p style="font-size: small;">死因の調査</p>			<p style="font-size: small;">死因の調査</p>				<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	
<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	
			<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>
			<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>	<p style="font-size: small;">死因の調査</p>
<p>死因の調査</p>			<p>死因の調査</p>				<p>死因の調査</p>	

遺体発見の場所
 谷中町 〇〇番地

発見者の氏名
 〇〇〇〇

発見時刻
 〇時〇分

発見場所
 〇〇〇〇

発見時死者の年齢
 〇歳

発見時死者の性別
 〇性

発見時死者の職業
 〇業

発見時死者の籍貫
 〇〇〇〇

発見時死者の身長
 〇〇〇センチ

発見時死者の服装
 〇〇〇〇

発見時死者の所持品
 〇〇〇〇

(9)



死 亡 現 認 證 明 書

陸・海・邦

裏面記載上の注意を見ておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

資 料 提 供 者		死 亡 現 認 證 明 書																							
死 亡 知 方 法		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
資 料 提 供 者		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
法 方 た つ 知 を 亡 死		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
係 関 の と 者 亡 死		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
所 住 現		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
職 部 所 隊 隊 務 属		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
(名 職) 親 附 名 氏		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
死 亡 当 時 の 状 況 及 び 参 考 資 料		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
省 当 担 守 留 名 氏 所 住 現		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
種 兵 種 役		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
級 階 の 時 亡 死 (業 職 名 職 係 又)		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
名 氏		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
年 月 日 生		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	
女 (男)		遺 留 品 の 処 理		元 死 亡 事 由 (傷 病 名)		諸 死 亡 場 所		死 亡 日 時		死 亡 区 分		発 病 場 所		発 病 時 期		区 分		本 籍 地		開 戦 時 の 住 所 (在 留 地)		所 属 (所 轄) 部 隊 又 は 職 名		城 名	

1943



死亡現認(確認)證明書

○裏面記載上の注意を見て書いて下さい。

昭和廿七年六月廿日
世話課

資料提供者	死者の資料					留守者 住所	本籍地	無有の届	
	遺留品	遺骸の処理	死亡原因	死亡日時	死亡場所			隊部	所属
法方たつ知と亡死 (例 埋葬に立会った、屍蓋を見た等)	現地埋葬					昭和三十七年五月十五日	同	野象連	一四
関係の人	銃殺					午後	同	隊	現
隊部	国民軍に投じ勤務中					甲	甲	歩	兵
所住現	銃殺					甲	甲	現	兵
官名	銃殺					甲	甲	現	兵
官名	銃殺					甲	甲	現	兵
官名	銃殺					甲	甲	現	兵

(死時状況)
国民軍に投じ勤務中
内乱が為銃殺された
墓は令農園のガム林中
にあり

(成りく詳しく御記入下さい)

民生部世話課

37-12

1944

本世 籍地	調査官	参考資料
※	見所 死と破生より	<p>同人本籍地後取死隊の総帥 22年の内乱に同ゲ時か未脚 等と著に日放回の名岩麻 パと上り、以の日放回司令部 と名は脱校ま小也。</p> <p>ヤ将の幕僚として本籍地岸州とシタレ市に居住し、自 同氏は本籍地岸州とシタレ市に居住し、自 望ニニニ年、内乱再燃、知人殺害 ハニ喚、直う所部外、ヒヤレ、コリン農園にて日放回長の命を、同志殺害 世話果は引揚調査</p>

名氏職 昭和甲大

世話果

引揚調査

37-13

- 記載上の注意（書き方にわからない點がありましたら、調査官に聞いて下さい。）
- 一、本證明書は、未歸還者の死亡の處理を行う場合の基本となる證據書類でありますから特に正確に書いて下さい。従つて、記憶が不確實なる箇所には、
けてその旨を明かにして下さい。
なお、本證明書が最も大切な點は、「死亡の事實を現認（確認）されたこと」並びに「死亡と知つた方法」にありますからこの點は出来るだけ詳細に記述して下さい。
 - 二、※印をつけてある所は調査官が記入しませんが、必要はあります。
 - 三、死亡を知つた方法の欄には、自ら現認した、死水をとつた、臨終に立會つた、屍體兵に立つた、屍體察又は葬儀に立會つた、誰々から聞いた、死亡したことを命令等で見た等死亡事實を知つた方法を具體的に書いて下さい。
 - 四、参考資料欄には次のことを書いて下さい。
イ、貴方の外に本人の死亡事實を知つてゐる人があればその人の氏名、所属部隊、本籍地等。
ロ、死亡者の特徴（容貌、體格、特業、時職等）。
ハ、死亡者が軍属の場合は、その官等階級（日給）、採用年月日等。
 - 五、調査官の記入事項
イ、資料提供者の記入せる事項又はその記入欄中記入の出来なかつた事項を、調査官が訂正又は補補した場合は「」を附して記入し、資料提供者の記入したものと明瞭にすること。
ロ、調査官は、死亡諸元の各項につき資料提供者に訊しその確度を判定しこれを該當欄に記入すると共に「死亡事實」について総合的に確度を判定し、且つ、調査に際し提供者から受けた印象等から確認處理の懸念として利用するに差支えないか否や等の判決を所見欄に明記すること。なお、資料内容に不充
分なる點特に死亡事實に一抹の不安のあるときはこれを補めるための手段等を附記すること。
六、本籍地世話果の欄は、本證明書の取扱要領等所定事項を記入するために利用のこと。

書明證認現確亡死 邦・海・陸

資料提供者		死者							開戦時の住所 (在留地)		所属(所轄) 部隊又は職		地名	
死を知らぬ方		遺留品の処	遺骨及び遺骸の処理	元死亡事由 (傷病名)	諸死亡場所	死亡日時	死亡区分	発病場所	発病時期	区分	本籍地	稱通有固		
下記参照		なし	ボゴール中内 埋葬	メラング軍の海軍により、みと	西ジャリ、ボゴール	一九四八年八月一日	※ み 七			内			百大対連	
死と関係の係		属所部細												
本人と同様 スカグミの住 任し知念と なつた		面局区地 ※												
所住現		容												
所屬 所屬 部隊 職		種兵 種役												
死時階級 (兼職名職は又)		死亡当時の状況及び参考資料												
氏名(職名)		本人は同部隊 三月初部隊屋自動車所持第1号バイクスカグミ地区で暮らして現地妻と結婚した本人現地名 与と称したその後、イと稱する連中が現地の捕獲兵ととらえられた。単にスカグミのバイクでメラング軍に加入した。自分は独立隊から同人を承知しており、捕らえたことは直接知っていた。その後現地妻と墓他を見訪を聞き、なお墓他を埋葬し埋入の説明をきいて右処刑の事実を確知した。												
氏名		統柄(父)												
氏名		名氏所住現												
氏名		同												
氏名		上												
氏名		名氏												
氏名		年 月 日生												
氏名		女 男												

裏面記載上の注意を覚えておいて下さい。(※及び裏面の各欄は記載に及びません)

姓	氏名	出生年月日	出生地
上	氏名	昭和6年6月20日	東京都豊島区

親	住所	職業
父 氏名	東京都豊島区	自営

1. 姓 氏名 住所 職業

2. 出生年月日 出生地

3. 親の姓名 住所 職業

4. 教育程度

5. 現在の職歴

6. 兵役の経緯

7. 戦中の経歴

8. 戦後の経歴

9. 戦傷の有無

10. 戦後の生活

1. 姓 氏名 住所 職業

2. 出生年月日 出生地

3. 親の姓名 住所 職業

4. 教育程度

5. 現在の職歴

6. 兵役の経緯

7. 戦中の経歴

8. 戦後の経歴

9. 戦傷の有無

10. 戦後の生活

1. 姓 氏名 住所 職業

2. 出生年月日 出生地

3. 親の姓名 住所 職業

4. 教育程度

5. 現在の職歴

6. 兵役の経緯

7. 戦中の経歴

8. 戦後の経歴

9. 戦傷の有無

10. 戦後の生活

死亡現認(確認)証明書

○ 裏面記載上の注意を記して置くこと。

昭和廿七年六月十五日
世話課

者供提料表	料 資 の 者 亡 死					現留守 住擔者 所者	本 籍 地	無有の届			
	遺 留 品	及遺骸の び遺骨の 處理	元 諸 亡 死					區 分	隊部 稱通	有	
			死亡 區分	發病 時	傷病 名					死亡 場所	死亡 日時
<small>(例) 遺葬に立會つた、屍蓋で見た等)</small> 埋葬法要ヲ行フ	/	クラミン街殉職者墓地に葬ル	手榴彈製作中爆死ス	アチエ州クラミン街スラチアヤ農園 甲	昭和 27年 2月 27日 午後 時 分 甲	内	[Redacted]	[Redacted]	現 兵 航 上		
<small>(例) 同中隊、同病棟等)</small> 同地ニ在	(状況の時當亡死)					[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]		
<small>(例) 同中隊、同病棟等)</small> 降部屬所 所住現	(成可く詳しく御記入下さい)					[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]		
<small>(中隊號)</small> 官氏 氏名 女	[Redacted]					[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]		

民生部世話課